

ホームレス

no.1

早朝から2:00頃まで、毎日公園に足を運んでいる以上、ホームレスといわれる人たちとの関りは必然的に起こりうるもので、世間ではどう思われているかは判りませんが、今まで関わった人々を見てみると、人間的に善良な方が多く、むしろ、その為がゆえに社会的に疎外されているように思われます。もちろん、例外的に悪い人もおりますし、アルコールやギャンブルの依存症、知能的に弱い方もおります。事例を挙げますと、

Aさんの場合、出会いは梅林で傘をさして後ろに立っておられ、“絵がお好きですか”と声を掛けたら、“特にそういうわけでもないけど・・・”と返答があり、ガタガタ震えているようだったので、自動販売機でワンカップを買い差し上げたのがきっかけで、身の上話をしてくれるようになりました。彼は日刊スポーツの配送の仕事をしていたそうで、妻がパチンコに浸り、サラ金に手を出し、ある日突然子供3人残し蒸発してしまい、サラ金業者が家に張り紙を貼るは会社にまで押しかけて来られ、とうとう会社をやめ、子供は福祉に預け、ホームレス生活をするようになったとのこと、やがて彼は大阪城公園で、いつも黒装束で、覗きを趣味にしている東大阪の零細企業のドラ息子さんの紹介で、メッキ工場で働くようになり、休み毎に大阪城にやってくる、コーヒ缶の差し入れをしてくれるようになりました。

Bさんは以前、金沢で板前をしていたそうで、どういういきさつかは判りませんが、最初に会ったとき、もう3日も食事をしていない、新聞の就職欄を見て電話で打診しているけれど、なかなか仕事が見つからないと話され、気の毒に思い、テレホンカードと食事代をさしあげ、その後、知り合いの手配師に紹介し、岡山県のダム工事の土煙を抑える放水係の仕事につくことが出来ました。

Cさんはいつも2人で行動し、夜は梅林中央の休憩所のシャッター前で段ボール紙を囲って、寝起きしておりました。前日、箒で周りを掃き清めている姿を見て、なかなか人徳のある方だなどと思っておりましたが、翌朝、いつもは、かたずて、いるのに、そのままの状態職員がシャッターを開けにきても返答がなく、死んでいることが判り、通報し、私も職質されました。このような事は月に一度の割で首つりや堀への飛び込み、自然死があります。有志の呼びかけで地蔵を二体許可もらって、設置されましたが、心無い人に壊されてしまいました。

Dさんは、息子さんのところで暮らしておりましたが、息子さんが離職してしまい、本人はお菓子職人で小さな店を転々と代わり、年金を掛けておらず、収入がなく、結局、気を使って、ホームレス生活をするようになり、空き缶拾いなど

No.2

で食いつないでおりましたが、極寒の青空のもとでは、かなり厳しかったようで、公の誘いで、滋賀県の施設に入りました。

Eさんは60歳の女性で学歴が高く、明治大卒で家は千葉県近郊の助役さんとのこと、父と一緒に山登りを良くしていたそうで、アウトドアの生活が好きで万博の時、大阪にきて、そのまま、ホームレスになってしまったそうで、学校を出たときアナウンサーの試験を受けたこともあり、その後、家政婦になった時、有名な作家の家へいったこともあるとのこと、親戚の娘さんから、おばちゃんのような人がいると、私たち、結婚できないはと言われたことがかなり精神的にショックを受けたようです。彼女はよく他のホームレスにいじわるされ、荷物をそっくり、投げ捨てられ、言い合いをしている姿をよく見かけました。彼女はしゃべりだしたら30分は止まらず、あそこで独り言を言っている人は、孤独が高じると、なるのですよと、話され、12月早々、空に雪が舞っているのを見て、“散り華が飛んできた”と言われ、初めて聞く言葉で、よく理解できなかったのですが、日本海から飛んできた雪のことのようです。俳句の季語で“風花”という言葉もあります。テッシュは駅前で配っている人にいただくとか、石鹼はニュージャパンのゴミ箱から手に入れるとか、店の前に置かれている廃油で洗剤は作れないか調べて欲しいとか、体を洗う時、ドラム缶で湯を沸かし、身障者用のトイレで鍵をかけ、体を洗うといった話を色々聞かしていただいた。

Fさんは塗装職人で徳島県から出稼ぎでやってきて、正月に帰り、子供に九官鳥をお土産に買って帰るのだと、いっておりました。彼は職人氣質で親方とよくもめて、職場を転々と替わっており、中之島の橋の下で寝起きしております。書が大変うまく、私のイーゼルのそばに段ボール紙に墨汁の書を置いてみたらと提案し、置いておくと、昼休み時に、オフィスのサラリーマンが感心して、私の好きな文章を書かして欲しいと要望があり、彼に連絡してあげました。彼は毎日曜日にお寺へ講話を聴きに行っているとのこと。

Gさんは中之島の三角州の森の中に28匹の野犬を飼っており、さらに、仲のいい犬がいて、かわいそうなのでくっつけてやり、4匹の子犬が産まれたばかりだといっておりました。毎日犬の餌を集めるのが大変で、1日1食、大きなゴミ箱八分目くらい食べるとのこと。餌は中央市場・高槻市の日本ハムなどで集めるとのこと、彼の風貌は犬のボスだけあって狼そのものです。イベントの時、露天商と交渉して、深夜の店番を引き受け、その代わり、残り物を譲ってもらうようにし、周りのホームレスをしきっているようでした。

Hさんは沖縄出身で、自転車で全国を回っていたのだが、途中で盗難にあい、そのまま、ホームレスになったとのこと、いつも橋の上にリヤカーを止めて、段ボール紙を集めたり電気製品を分解して、アルミや銅線を集めたりして

No.3

おり、犬をいつもつないでおります。彼は電気工事士の資格を持っており、電気のことにはかなり詳しいので、よく私は部品集めに協力してもらい、買っておりました。

Iさんは趣味が一風変わっていて、バスの車体番号の収集です。ノートにぎっしり3冊分ありました。暇さえあれば大阪駅のバスターミナルへいき調べているようでした。私もお手伝いしてあげようとSNSで調べてみますと、共通趣味の人があるはあるはでびっくりしました。A4用紙で10枚分渡してあげますと、新しい番号が4つあったと、あとで教えてくれました。なんでも中学時代から続けているのだそうで、食べていけるだけでも大変なのに、その中で、小さな喜びを見つけている彼に応援したい気持ちです。

Jさんの容貌は、髪が長く、セータはピンク、靴下もピンク、靴はハイヒールどう見も、女性です。ところが近づいてみると、鼻髭を生やしていたので、男性だということが判りました。彼はまだ若く、16歳まで施設で暮らしておりましたが、年齢制限で施設を出て、就職していたのですが、そこを辞め後は転々と移り住み、ホームレス生活になってしまったのだそうです。なんでもIQが非常に高かったそうで、ちゃんとした家庭生活をしていれば大成していたのにと、本当に残念です。幸い友達が出来ており、いつも2人で行動しているようです。

Kさんは橋の下で暮らしており、まだ若い青年で神戸震災の時、橋が大揺れして生きた心地がしなかったそうです。彼のところへ時々、インスタントラーメンの箱詰め差入れがあるそうで、その方は地方から出てきて、大変苦勞したそうで、その為か、困った人を見ると、少しでも、力になってあげたいと言っていたそうです。彼は時々、ビルの清掃の仕事などしているのだそうです。中の島は度々浸水し1.5m近く浸水し、レストランのソファなど一度つかると臭くってつかいものにならないとオーナーが言っておりました。

Lさんはレストランの開店前にリクライニングソファを組み立て、悠々自適に本をいつも読んでいます。本は中之島図書館で借りているそうで、今は充電期間中だと言っておりました。彼は昔、アイスクリームの卸元をしており店子が80軒もっていたそうですが、不渡りに会い住む家を売りはらい、借金をすべて返し家族とも別れ、こんな生活をしているのだと話されました。あなたなら、経営のノウハウを持っているのだから再復帰できるのではないかといいますと、もうこりごりだと言っておりました。

話は尽きませんが、このへんまでにしておきます。

